

第52回島根県総合開発審議会

日 時 令和元年10月7日(月)

13:00～15:00

場 所 島根県職員会館多目的ホール

○服部会長 失礼いたします。定刻になりましたので、ただいまから第52回島根県総合開発審議会を開催したいと思います。

開会に当たりまして、まず、知事から御挨拶をお願いいたします。

○丸山知事 本日も平日、日中のお忙しい中、県内各地から、また各分野の代表の皆様には大変貴重なお時間を頂戴しまして、誠にありがとうございます。

前回の審議会では、この素案につきまして御意見を頂戴したところでございます。この本審議会以外の、また公聴会ですとか県議会、市長会や町村会等でいろんな御意見をいただいております。そういったことに対する対応ですとか、また、この島根創生の事業の推進と表裏一体でございます財政運営、財源の確保といったことにつきましての御説明につきまして、本日させていただきます、御審議をいただきたいと思っております。こういった、施策の充実と財政運営の健全性の確保といったことをどう両立していくかということも大事な課題でございますので、その点についてもまた貴重な御意見、忌憚のない御意見を頂戴できればということで、本日も御審議よろしくお願い申し上げます。

○服部会長 それでは、本日はすけれども、海士町漁業協同組合の亀谷委員、浜田のまれの縁側の栗栖委員、県保育協議会の朋澤委員、NPO法人でございまして石見の本宮委員が御都合により欠席です。また、県市長会の松浦委員、県町村会の下森委員は公務のため欠席でございますが、オブザーバーとしてそれぞれ吉山常務理事、今岡常務理事に参加いただいております。

なお、杉谷委員がまだ来られておりませんが、現在17名の委員の方が御出席でありまして、審議会規則第4条第2項の規定により、委員の半数以上が出席していますので、会議が成立していることをまず御報告を申し上げます。

(前回まで欠席の委員による挨拶)

○服部会長 それでは、会議次第に従いまして議事に入らせていただきます。

前回は、事務局から素案を示していただき、御議論いただきました。本日は、素案から

答申案を策定していくに当たり、事務局からの関連資料の説明を受けた上で、議論をいただきたいと思っています。

まず、事務局から資料について説明をお願いいたします。

○事務局（資料に沿って説明）

○服部会長 ありがとうございます。今、財政運営方針の説明を受けました。財政状況は厳しい状況にあるようでございます。健全な財政運営とのバランスも図りながら、施策を推進する必要があるものと思います。本日のこの審議会では、この財政運営方針につきましては特に御意見を伺う予定ございませんけれども、今後の創生計画等を議論頂く上で、基盤となる財政への理解が必要ということで御説明いただきました。この財政運営状況を考慮に入れながら、素案について、御意見を頂戴したいと考えています。

それでは、今後の答申案に盛り込むべき内容につきまして、意見交換を進めたいと思います。前回お示しいただいたのは素案であり、これから実際に答申案を県で作成していただきますけれども、審議会でもいただいた御意見、またパブコメ、それから市町村長さんの御意見等も踏まえまして、改めて答申案に盛り込むべき内容、また修正すべき内容等について御意見を頂戴致したく考えてございます。

この島根創生計画は、今後5カ年の施策の基本的方向を示すものであります。そのような観点から、資料の1は素案に対する御意見、それから、2というのは案の骨子に対する御意見ですけれども、これらを参考にさせていただき、素案に足りない要素や修正が必要な箇所について意見を頂戴したいと考えております。

前回2回の審議会におきましては、各委員さんから広く意見を募りたいということで、皆さんに一言ずつでも御意見をいただきましたけれども、本日は、一通りの御意見頂戴しておりますので、今言った視点から、素案にないところ、それから修正すべき点について、お気づきのある方から御発言いただければと考えております。時間は大体あと70分程度、予定は2時50分ぐらいまでを意見交換の時間と考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、意見の伺い方ですけれども、素案は第1編、第2編、第3編、その前に計画全体の考え方がありますので、計画全体の考え方、それから、第1編として「人口減少に打ち勝つための総合戦略」、ここでは1章から4章までございます。それから、第2編として生活を支えるサービスの充実について5章と6章あります。それから第3編として、安全・安心な県土づくりということで7章、8章がございます。この4つの大きなくくりの順に

御意見を頂戴してまいりたいと考えております。

それでは、まず計画全体の考え方につきまして、特に素案で足りないこと、また修正が必要と思われる箇所がございましたら、意見を頂戴すればと考えてございます。意見のある方は、挙手をいただければ喜びます。いかがでしょうか。よろしくお願いいたします。

議事の進行が拙くて申しわけありませんが、きょう初めて御出席いただいた委員から全体を通して意見を伺いたいと思います。その意見を皮切りに審議を始めたいと思います。

○委員 御意見の中にありました、人口減少に打ちかちってということですよ。これを人口減少に打ちかちではなくってという意見が出ておりました。それぞれの言葉の文言っていうものは、それぞれ皆さんが考える、その一通りのいろんな意味があります。私はこの人口減少に打ちかちってという言葉は、強くこの島根の意気込みといいますか、そういったものの勢いをここに感じますので、これはこれでいいのではないかと考えております。

そして、島根らしさって言葉をよく使いますけども、では、何が島根らしさなのか、島根しかないものっていいですか、どういったものをあらわすのかなって思ったときに、私は隠岐の島出身でございます。島根は横に長く、島を抱えております。この島根にしかないものを生かしたものであるならば、それが強みだと、小さいからこそ、そして、コンパクトな県ではないんですけど、でもでも、人数的には小さなところですので、かゆいところに手の届く島根らしさにあふれた、先ほど市町村の方の言葉にありましたけども、圏域別にきちんとした対策というか施策をきちっと上げてほしいという声がありました。私もそれに同感です。それぞれ小さいところ、特に石見、石西、そして隠岐に関しましては、本当にそれが望ましいことでもあります。もう少し具体的にそういった圏域別の考えを示していただけたらというふうに考えております。そこに島根らしさがあらわれるのではないかとこのように考えます。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 この創生計画読ませていただきまして、私、産業界の代表として出ているわけですから、少なくとも産業界の、我々の平素からお願いしたい事項についてはほとんど全て記載してございまして、特に個別のものに関しましては、これ以上のものをお願いするということではありませんが、一つ、これ読んで感じましたけども、従来はたしか島根県総合計画っていうのがありまして、そこで一本で長期計画を検討してきたと思うんですが、地方創生本部ができて、地方創生が始まったら、総合戦略っていうのが新たにのっかってきたんですよ。何か皆さん方の意見の中にも少しそういうこと触れている部分がありま

したけども、非常にこれがわかりにくくて、この中で、ちょっと頭の中整理しなければ一つ一つの政策がつながっていかないみたいなどころがあって、そもそも考えてみれば、人口減少を迎えて総合戦略、地方創生本部ができて総合戦略をやるというのは、その総合戦略の肝っていうのは人口そのものをふやすか、あるいは減さないか、そのために何をするかということですから、大まかにいえば合理性とか効率性とか、つまり経済合理性が優先した形での政策を求める形に、実は、その筆頭が多分産業振興、勤め場をふやすとかそういうことなんだろうと思うんですが、そういう大きなくりと、もう一つは、その中で余り議論されない福祉であるとか、生活環境、医療とか教育とか、そういったものというものは、人口が減っていくという現実に向き合いながら、人口が減っても幸せで好きなどころに暮らし続けられるための施策っていいですか、それは恐らくソフトが中心になると思うんですが、そういうものとある程度峻別してこれを読み込まんと、なかなか頭の中で混乱して、相矛盾したものがぶつかり合うっていうようなところがあって、非常に読みにくかったっていう思いが多少あったわけです。中身はほとんど完璧で、もうこれ以上つけ加えることはないと思うんですが、そのところをひとつ皆さんで頭の中整理しながら、実行に移すときにはある程度その辺を意識しながら実行したり、結果検証したりっていうことが必要だなというふうに思ったのが一つ。

もう一つは、前の皆さん方の意見の中にちょっとあって、私もそうだなと思ったんですが、一つは、計画をつくったのを実際に進めていくに当たって、どんな進め方をするのかっていうことは極めて重要で、現場、小さな現場を大事にするっておっしゃってますから非常に心強いんですが、具体的にはやっぱり市町村とか各団体とか、そういうところとどういう連携をとりながら、あるいはもっと違った民間企業も含めてかもしませんが、物によっては、どういうことを含めて実際に進めていくのか。例えば後継者問題なんか本当書いていただいてありがたいし、非常に問題意識としては共有してますが、例えて言うなら、この間、中小企業白書の2019年版が出まして、ちょっと統計が古いんですが、2016年までの10年間にこの島根県は企業数が5,654社かぐらい減ってるんですね。企業数が減っているということは、中には新しくできた企業もあるんです。新しくできた企業っていうのは東京商工リサーチが時々発表してますけど、大体10年で大ざっぱですが、2,500社程度あるんですね。そうすると8,000社程度が減っているっちゅうことになるわけですね。いわゆる減ってる、その中に倒産ももちろんあります。倒産は、これも帝国データバンクとか東京商工リサーチのデータを見れば大体わかりますが、

大体10年間で2,000社、200社、150から200社が毎年倒産してるんですね。そうすると2,000社ぐらいですから、残りの6,000社っていうのは廃業してるんですね、これもう恐ろしい数字、全体の企業の減っている率っていうのは、全体の企業数が2万二千数百社ありますから、大体20%ぐらいなんですね。10年で20パーの企業がなくなる、これえもっと激しく減っていくわけですね。

通常、人口が減少してマーケットが減るわけですから。これなんか、どう対処するんだっていうので、例えば後継者問題とか創業支援の問題が非常にクローズアップされて、そういう、例えば創業がどんどん出てこなければ活力を失う一方ちゅうことになるんです。廃業を食いとめるためには、後継者問題をどう解決するかみたいなことが非常に重要な柱になってくるんですが、これを実際に進めるということになると結構難しく、例えば国の後継者支援をする機関、これは県の商工会議所連合会が請け負っておりまして、後継者支援センターっていうものをつくって、実際に全国のネットワーク通じながら後継者を探したり、相談を受け付けたり、探したりしてんですね。これなんか去年250件も相談受けながら、たった18件しかきちんと成約できてないわけです。非常に率が低い。それはなぜかという、企業そのものの相談を受けるときにはほとんど赤字か赤字ぎりぎりかという状況、ビジネスモデルにつまり魅力がないから後継者、子供も継がないし、従業員も継がないっていうことで、それをどっかへ出してみたって、余り結果は期待できないわけですね。どうすれば期待できるかっていったら、その企業そのものを、実は付加価値をつけながらそういうことをする必要はある。これは、例えば経済団体の中の人材だけではないかなかなか難しいとか、さまざま限界があるわけですよ。そういうものがありながら、やっぱり形でこう入っていくと、結局やることはやってるんだけど、実効が上がらないということに、実はなってる。

これを打破するためには、やっぱりありとあらゆる連携をとり、銀行でもちょっと調べてみたんですね。銀行も結構受け付けはやってんですけど、やっぱり実績は似たようなもんなんですね。銀行をもってしてもなかなか難しい、銀行のネットワークをもってしても、つまり、なかなか企業の価値をつくり直すという作業がいかに難しいかということであり、それをやらなければ、しかし、後継者なんていうのは、もう自分の代でやめるといふ企業の実態っていうのは変わりませんから、そこをじゃあ、どうやって具体的に、どういう連携でもってそこを一つ一つ捉えていくんだということになる。もちろん県も力を入れていただいてやっていただいているわけですが、それが全てやっぱり連携がとれて、現実

とれてないということがある。

なかなか難しいとこなんです、じゃあ、どうとればいいんだっていわれても、これまた非常に難しく、寄せ集まっただけでは難しいですから、一つ一つに外部を巻き込んで、コンサルティング会社とかさまざまものを巻き込みながら、丁寧に一つ一つやっていくしかないです。そのためにはワンストップの組織みたいなものが必要なんですね。そういうようなこと、例えて言えば、一つの政策そのものを実現に移していくための、実際どう現場で、現場と行政本体とが結びつきながらやっていくかっていうのは非常に肝なところで、それがこの間の意見にちょっと出たもんですから、私も全く同感だなと思いつつながら、進めるに当たってのやっぱりそういう現場との、何ていうか、連携を大切にさせていただきたいなというふうな考えがいたしております。

○服部会長 ありがとうございます。今、委員から、全体的な御意見を頂戴いたしました。

それでは、議題を戻して、計画全体の考え方につきまして、特に修正、または追加すべきことがあるとお考えの方は、挙手いただければ喜ばれます。いかがでしょうか。計画全体については、大体こういうことでよろしいでしょうか。それでは、また後で最後にもう1回確認しますけども、今のところとりあえず計画全体の考え方については、特段の意見がないということにさせていただきます。

続きまして、第1編ですが、第1章の活力ある産業をつくる、2章の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、3章の地域を守り・のばす、それから4章の島根を創る人をふやすということで、あわせて1章から4章までで、御意見があれば頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

○委員 16ページでございますけれども、農業の振興の関係でございますが、一つは、ああして県と我々JAはここ四、五年かけて農業生産額を100億伸ばすんだということを提携をさせていただいたわけでございますが、それに近いことは書いてありますが、100億という数字が少なくとも私がいただいた原稿にはございませんので、そういった数字をきちっと出されたほうがいいんじゃないかということでございます。それに基づきまして、じゃあ、100億円をどうやって、これから5年あるいは4年をかけて伸ばしていくんだということは、これは非常に難しい問題でございますが、約束したからにはきちっと実行しなければならない。

ここに1から3までいろいろ書いてございますが、私は8月27日の委員会でも申し上

げたように、具体的には、例えば、有機農法がいいとか悪いとかという問題ではなくて、若い皆さん方が農業に入りたいためには、やる気はあるんだけども、金もない、土地もない、そういう方には、私ども今やっている中で一番有効であるのはリース事業なんです。ハウスとか団地とかですね。現在もやっていただいております。県のほうに協力してやっていただいておりますが、やっぱりそういうものを全面的に出して、具体的な作戦を立てながら目標を達成していくんだということが、もう少し見えるような形にさせていただきたいなど。これを否定するものではございませんよ。より明確化にするために、意見として申し上げておきたいと思います。

それから、ここで言うべきことではございませんけれども、最近私どもは、農福連携ということに非常に力を入れております。きょうの農業新聞でも、これから政府は農福連携にさらに予算をつけていくんだという記事が報道されておるわけですが、農福の関係の福のところを見ましても、ちょっと斜め読みで恐縮でございますが、そういうものがはっきりうたわれていないのではないかということが思ったものですから、農福連携ということで、農村地域におきましては非常に労働力不足が顕著になっておりますが、もちろん外国の労働者を入れることもいいんですけれども、やはり地域の皆さん方をいかに活用していくか、高齢者とか障害者の皆さん方の活用の方、あるいは仕組みづくりをしっかりとやっていくということもこれから大事なのではないかと思いますので、ここでの議論ではないかもしれませんが、以上でございます。よろしく申し上げます。

○服部会長 ありがとうございます。きょうご発言いただきました意見につきまして、この場で県の回答を求めることはせずに、頂いたご意見をしっかりと県で受けとめていただき、答申案に反映するように取り組みをお願いします。県のほうから特に発言がありましたら、挙手いただいて発言して頂きたいと思いますが、本会では、まずは委員の方々の意見を頂戴したいということでございます。ありがとうございます。

○委員 ものづくりというところで、御意見のほう出させていただきたいと思っております。

素案に対しますパブリックコメントとか見させていただきまして、やはりこれからの島根県というのは1次産業及び観光を中心とした形でやりたいんだというのが、皆様の御意見の中にありました。ただ、力強い地域産業づくりの中では、やはりものづくりというところも非常に重要な施策であるということも大変認識しとるところでございます。そういった中で、やはりものづくりのところ、新しい分野に応援をしていくというような施策が盛り込まれております。また、同じように1次産業に関連しますけれども、食品産業、こち

らにつきましてもいろんな形での支援体制というメニューができてるといことでございますが、やはり銀行でいろいろと企業の皆様と、要は対応させてもらう中での一つの課題、やはり面的なもの、例えばそういった産業は集積していらっしゃるところっていうのは多くの課題を今まだ抱えられていらっしゃいまして、時代の潮流に乗らなかったのか、あるいはいろんな問題があるのか、いろいろさまざまではございますが、そこがまだ解決されずにいらっしゃられるところがございます。いずれにしましても、新しい施策を進める上で、既存のそういったような問題ももう1回見直して、どうやったら解決できるかというのも、この計画の中の裏ではしっかりとしなくちゃいけないと、私もこれを見て思っておりますし、私どものほうもそういうふうにさせていただきたいと思っております。行政の皆様ともそういった施策をもう一度、これをしっかりした上で、これが土台となって新しいステージに上がっていくというようなお手伝いをさせていただきたいなというふうに感じたところでございます。

それと、もう1点でございますが、企業の中で、最近では地域課題を解決するようなことを事業のなりわいとされてらっしゃるところがあります。今まで、当然ながらNPO法人の皆様とか、あるいは任意団体で取り組まれた内容のものを、要は、例えば耕作放棄地の問題でありますとか、高齢化社会への対応及び人手不足、これはいろんな技術者になると思っておりますけども、そういったような課題を事業としてやってらっしゃるところが最近ふえてきていらっしゃいます。こういったようなところも地域課題の解決という意味では、しっかりと私たちもお手伝いさせていただきたいと思っておりますので、ここになかなか盛り込むこともできないかもしれません。ただ、そういった地域の課題を少しずつ解決することは、新しい島根の成長には必要なものだというふうに思っております。そういったことを私たちもしっかりやっていくつもりでございますので、この辺のほうを御留意いただけたらというふうに思いますので、発表させていただきました。ありがとうございます。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 産業界から出ていますが、先ほど委員がほとんど言われましたから、私の言うことはありませんが、ただ、この中に予算づけをするということが問題だと思うんです。今やっぱり倒産とか廃業が多くて、起業が少ないっていうことはもういや応なしに人口が減っていくんですね。逆に言うならば、起業が多くて、倒産、廃業は少なくなるってならないんです。そのために、起業とか、いわゆる起業できる人間はどこで求めるかということになると、最後はもうUターンかIターンしかないんですね、逆に言うと。その方たちが

入ってきて、6次産業化やったり、新しいのをやったり、それを島根県なり、あるいは産業界、あるいは金融界、全面的に応援していくっていうしかないんですね、やっぱり。ですから、思い切った、いわゆる産業振興に予算をつけていただきまして、それによってUターン、Iターンが入ってきて、やろうかと、いろんな意味でやってやろうということがふえてくれば、これしかないわけだろうと思いますね。これから予算が、県の収支もちょっと悪くなりますから、もうUターン、Iターンをどんどん入れてくるしか、それを手厚くもてなして、やはり新しい産業を興していくっていう、そういう方向を、これから方向を持っていかないと恐らくじり貧になってしまうということで、この予算づけをこれからはそういう意味で、産業振興にやっぱり重点を置いた予算づけをしていただきたいなというふうに思います。以上です。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 私も活力ある産業をつくる、15ページからのことについて、ちょっと意見を申したいと思います。

この取り組みの中で、真っ先に魅力ある農林水産業づくりということで取り上げていただきまして、林業のこともしっかり書いていただきまして、ありがとうございます。その中で、特にお願いしたいところは、やはり林業でもそうなんですけども、現場で働く作業員の皆さん方の待遇改善というところでございます。15ページからの記述に真っ先に所得を引き上げ、若者の雇用をふやしますというふうに書いていただいておりますけども、林業だけじゃなくて、建設業界などでも現場で働く方はたくさんおられまして、なかなかその部分の賃金というのは厳しいところがあるんですけども、そういった水準がどの程度なものかいろいろ私も調べてみまして、その中の一つとして、公共事業、道路とか防災事業とか、林業のほうでも林道とか、そういった公共事業を積算するときの労務単価というものがございます。これは国土交通省が毎年調査をして各県ごとに実態に基づいて設定するものでございますけども、その島根県の単価が、50数種類あり、その業種ごとにいろいろなんですけども、全国の中でも非常に低い状況にあるということがあります。こういった単価を引き上げればいろいろ波及効果というものも見込めると思いますので、どうか、こういった現場の作業員さんたちを雇っておられる事業者がいろいろ待遇改善をする取り組みを後押ししていただけるようなことがもし可能であれば、そういった取り組みもぜひ加えていただけたらと思います。以上でございます。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 「島根を創る人をふやす」のところ、これはパブリックコメントでしたかね、そのところをざあっと読んでいて、110番ですね、島根式子育てを提唱するというキーワードが出てましたけれども、そのワードにちょっとはっとするというか、私、出雲で生まれ育ちまして、隠岐で子供を育てました。学校教育にもかかわってきたんですけども、やっぱりここで生まれ育つことの魅力と、子供を育てていくということのよさというのをとても強く今思います。島根の将来っていうことを考えたときに、やっぱりここで子供たちを育てる、ここの思いを持った子供たちを育てる、育てやすい環境であるということ、ちょっと具体的なワードで落とすっていうことは、もしかしたら大事な事かなというふうに、先ほどここを読んでいて思いました。

それに関連づけてですけれども、この答申の中で、やっぱり人を育てる、人をつくるというのがとても大きなキーワードになっているというふうに思います。やっぱりそれが一番時間も労力もかかることで、でも、将来的にその先を見たら、それが一番大事な事かなというふうに思いますが、ここを思う子供たちを子供たちを育てていく上では、地域魅力化コーディネーターさんの力が今非常に大きいものがあるなというふうに感じています。隠岐もそうですし、隠岐高校、うちの息子が通ってますけれども、隠岐高校もそうですし、各地、視察に行かせてもらったり、海士の島前高校の教育状況を見ても、教員とは別に、魅力化コーディネーターさんがどのような動きをされるか、教員と連携をとってされるかっていうことで、随分変わってきているなというふうに感じます。そう思ったときに、この答申の中で、人材育成という上で、魅力化コーディネーターさんをしっかり育成すると、掘り出すということと、外から引っ張ってくるのももちろん、地域魅力化コーディネーターさんをしっかり育成するっていうことがもう少し強くうたわれてもいいのかなというふうに感じました。以上です。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 私のほうからは、「島根を創る人をふやす」のUIターンのところで、自分自身もIターンで参りまして、地域おこし協力隊のOGとして、それから現在島根のネットワークの代表として、あと、総務省のサポートデスクのほうにも出ているので、全国の地域おこし協力隊の状況がある程度知る者として、お話というか、お伝えしたいなと思ったんですけども、やっぱり今、いろんな委員さんのほうから出られたものの中に、すごく地域おこし協力隊、いろんなところでかかわっております。産業のところでも出てこられましたけれども、先日、中小企業課の方ですとか、あとは事業承継のセンターの方ですとか、

そういったところから、地域おこし協力隊をそういった事業承継の担い手として、いい人いないだろうかというお話を聞かれたりもしましたし、教育魅力化のコーディネーターさんの財源が地域おこし協力隊の制度であったり、林業や農業のほうの担い手というのも、協力隊として移住されてきてる方が非常に多いというのがあります。

ただ、残念なのは、やってきたけれども、3年終わった後に残れていないっていう状況がすごく課題になっておまして、2年前のデータですけれども、島根県は、全国の協力隊の定住率が6割を超えてる中で、島根の場合は4割を切っているということで、定住のサポートっていうのが非常に大事だと思ってるんです。

ただ、現在、島根県の場合、協力隊のことっていうのが余り把握されていないっていうのがあります。これ、パブリックコメントのほうで、県と市町村の関係の抜本的な改革が必要というようなコメントがあったんですけれども、協力隊制度を最初が市町村の制度として始まった性格上、なかなか県として把握しづらっていうのはあったかと思うんですが、制度が始まって10年たって、他県であれば、他県の中には大分、県が各市町村の協力隊を把握して、市町村ができないサポートを都道府県のほうがしていったって、協力隊の定住、定着を図るといような取り組みもふえてきています。中国地方では、鳥取県さんや山口県さんがそういったところで成果を上げておられます。

そういったこともございますので、今、この素案の中には協力隊というのは言葉として出てきていなんですけれども、ぜひちょっと入れていただくことを検討していただいて、いろんなところにかかわってくるものになります。最終的には起業ですとか事業承継ですとかしていきたいところではあるんですけれども、Iターンしてきた、Uターンしてきた人がいきなり起業や事業承継するのって難しいと思うんですが、3年間隊員として活動した後、そういったことを見据えた活動ができるようなサポートを島根県として、していったときに、担い手っていうのが多く生まれてくるんじゃないかと思います。以上です。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 私も7月末で地域おこしを卒業したっていうのもあって、先ほどの委員のお話のちょっと続きにもなるかもしれないんですけど、私、卒業して、一応週末だけ自分のお店という形で起業ということで、任期は2年で卒業したんですけれども、やっぱり島にまだいる現役の地域おこし協力隊の子たちの活動を見ていたり、ふだんの悩みとかを聞いたりすると、隣の島とかもそうなんですけど、やっぱり出ていくメンバーが毎年必ずいます。定着率でいくと、やっぱり結構覚悟を持って、最初に来てる家族連れの方とか、そも

そもその土地にこだわりがあって来ているっていうメンバーでない限り、なかなか難しいなというのを感じてるんですけど、やっぱりダブルチャンスみたいところで、もしかしたら知夫村には何か合わなかった部分があるのかもしれない。でも、隠岐の4島だけですから、隣の島と全然、何ていうんですかね、人とのコミュニケーションのとり方だったりとか、やっぱりちょっと色が全然違うっていう、こんな近辺でもあるので、せっかく島根に来て3年なり2年なりいた子たちが、でも、ちょっと離脱したところをまたちょっと違うタイプのところ、島根県すごく広いので、そういうところでもう一回、何ていうんですかね、挑戦してみないって、誰か一言声かけたりとか、もしここでできなかったことを、うちならさせてあげられるかもしれないっていう、その一言があったときに、いきなり島根から出るっていうところにはならない気がするんですね。

そのダブルチャンスが私は絶対あったほうが良いと思っていて、求人情報とか、どこで何がどういう職種を募集されてるとか、どういう人材を集めてるっていう情報すら、隠岐4島ですら共有されていなくて、たまたまこれは任期当初の話ですけど、隠岐で知り合いの近所の方と飲んで、お店で。たまたま近くにいた方が、隣の島の自治体のトップの長の方だったんですけど、何か酒の席だったのもあって、みんなで結構ざっくばらんと話してたときに、隠岐それぞれでも離脱する子をもう一回うちでとか、やってみいひんかっということはないんですかとか、例えば一つの、隠岐全島の求人をそれぞれの島がもう一覧で張り出して選べるような状態とかっていう環境はないんですかって聞いたときに、やっぱりそれは人のとり合いになるからあかんって言われたんですよ、それがすごいショックで、何ていうんですかね、もう「しょうもな」と思ったんですよ。そういう人のとり合いとか、後でそれ、とった、とらへんでもめるからみたいな、その価値観が、ああ、もうそっちを優先するんだったら、何かそれはちょっと人を定着させるとか、Iターン、Uターン欲しいとかって言うてるのより優先されるのがそっちなのかなって聞いたときはちょっとショックだったんですね。

実際、済みません、散り散りになって。地域おこし協力隊の子たちは、やっぱり3年後がとにかく不安で不安で、生活にもなれながら、日々の業務にもなれながら、全部を同時進行でこなしているんで、3年間の中に自分の将来像、ビジョン、その土地で見つけるっていうのは本当に難しくって、スペシャリストではないので、普通の人間なので、多分そこで何かやるぞって決意して、資金的なこともありますし、いろんなこと考えていながら悩んでいるので、やっぱりそこはもうちょっと周りがサポートしてあげる、常々ちょっと

一声かけるなり、また、ここじゃなくても、島根のここもあるよって、別にもっと広い概念で、島根っていう大きな枠で本当に、もう一回ダブルチャンスとか、そこが本当にどうしても悩み過ぎてしんどいんだったら、こっちもあるよって、その自治体が言えるぐらいの心の余裕はあってもいいんじゃないかなと思います。

あと、観光もそうなんですけど、私、ちょっと島根人歴まだ2年なんで、島根県、日が浅いんですけど、観光も何かダブルホッピングじゃないですけど、隠岐に来た観光の人に対して、島根のここ、ほかのこのところ、めっちゃいいですよっていう、よそのエリアを熱を持って紹介できたりとか、ここがね、ここはまた違うこういうのがあってっていう、もう一段階、次来たときはこっちもいいんじゃないっていうふうに紹介できるような、何かみんながそういう共通の習慣なのができたら、観光のリピーターだったりとかも、えっ、この、今旅で出会ったこの方がそんなにいいよってお勧めするそこなんだったら、次はそっち行ってみたいなと私は思うので、何か何でも、ちょっとこぼれたものを絶対にキャッチ、もう一回するっていう受け皿があると、何か今までのもったいなさっていうのはもう少し薄れるんじゃないかなって思ってます。済みません、ありがとうございます。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 ものづくり産業のところ、ものづくりという表現が非常にいいなと思いつつ、少しぼんやりしていて、以前から感じていることなんですけど、私は職業能力開発審議員というところにも参加しております、そこでものづくりについて審議していたりもするんですけど、ここ、19ページとかに書かれているものづくり産業っていうのは、主に製造業のことを指しているのかなというふうに感じております。私は建設業に携わっておりますけれども、建設業もものづくりだと認識しておりますし、そういった立場で職業能力開発審議会のほうにも参加しているつもりなんですけれども、例えば予算がつくときに、設備投資への補助であったり、人材育成の補助であったり、例えば商工労働部さんのほうに予算がつきますが、この補助金については製造業しか対象じゃないということが多々あります。

先ほど委員も言われましたけれども、建設業も非常に廃業が多い産業です。企業の付加価値をアップしないと、後継者問題の解決にはつながらないというふうにおっしゃっております、本当にそのとおりだと思ってるんですけど、建設業もやはり整備投資を進めなければ、企業の付加価値というのはアップしないと思います。設備投資も人材育成も製造業と同じものづくり産業だと思っておりますので、以前、そういうふうに意見を申し

上げましたけれども、それは土木部のほうに要望してくださいというふうに言われたりしまして、すごく縦割りだなというふうに感じておりますので、このものづくり産業というところに、やはり製造業や建設業などと、対象に建設業をぜひ入れていただきたいというふうに思っております。以上です。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 安心安全な生活を支える一番基盤の一つは、地域医療の充実というところは大変ありがたいことだと思っております。パブコメにもございますし、最初、私、1回目にたしか申し上げたと思いますが、人口減少があるんだったらふやせばいいという発想、これは当然そうですし、ふやさないといけないんですけども、これは知事も常々おっしゃっておることなんですけど、この合計特殊出生率、希望出生率、これはあくまでも結果であって、目標ではないということですね。それを目標にしてやる、もちろん数字を出していただくのは結構です。1.07とか、2.幾らとか、そういう数字は当然いいんですけど、あくまでもそれは結果だと。女性の社会進出がどんどんと活発になっている先進国では、当初は出生率はむしろ下がるということですが、そのうちに、つまり女性が働きやすいような職場の環境であるとか両立支援であるっていうものが充実されてきたということが逆に出生率の回復につながってくるという、そういう研究報告もございますので、あくまでもそれは、そういうところを目指して、周辺をやっていって、結果としてそういうものが出てくると、そういうことを改めて申し上げたいと思います。

それと、これは各分野に共通することです。1回目にも申し上げましたが、道路網の整備、特に高速道路網の整備は救急医療の様相を変えますので、どこそこの、例えば県中とか大学まで何分で行けるといようなことは、やはり医療の形そのものを変えていきます。特に救急医療については、そういうものもぜひ、これは命をつなぐ道路ということは言われておりますが、ぜひ御検討をいただきたいと思っております。以上です。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 素案に直接は関係しないかもしれませんが、何点か要望も含めてお話ができればなと思っておりますが、まず、きょうの財政健全化の話は、受けとめ方として、島根県の財政は溝口県政である程度健全化になってるといえるのか、そこに近づいたというふうに、直接そういう感じを持っておりまして、ある意味新知事に対しての期待もあるわけですけども、ただ、さっきの財政健全化計画の話の中では、年間20億足りない、20億をつくっていくんだという話だと思うんですけど、危機的な状況なのかどうなのか。財源がなくてな

くてどうしようもないというような状況では、どうなのかっていうのがなかなか酌み取れないとこありまして、例えばお金がないならお金がないっていう周知をやっぱりすべきだと思いますし、その中でやりくりをするなら、ある意味強いこともやらないけんかもしれません。そこらは県民の受けとめ方に対して、やっぱり丁寧な説明、あるいは情報発信の仕方、そういうところをまずお願いをしたいなと思ってます。

この素案にもありますけど、国体の話が出てまいります。国体が令和11年の予定だという話がありますが、これで45億積んで、90億をかけると、なるべく縮小して考えていくんだという話がありますけども、それはもう決まり事なのかどうなのか。ここに書いてしまいますともう決定事項となって、それに向かっていくような話になりますけども、そこらがちょっとまだのみ込めていないところもあるものですから、少しこれは説明いただければ、お願いをしたいなと思ってます。

それと、中期の財政計画の中で、特に低コストで良質な行政サービスができるということで、PFIの話などもありますけど、先ほど来の森林組合の方からの話も同様なんですけど、私も聞いている限り、建設業界の皆さん方は、非常に現場に従事する技術者の方が本当にいないんだという話を承ります。同時に、適正な単価でやっぱりしっかり発注をしてほしいという話を伺っております。そういう要望が強いということがあって、安易な行政コストのためにダンピングっていうような格好になっちゃいけないなっていうふうに思ってます。そういった意味で、素案の中でいえば、地域を支える人材っていうようなところがあるわけですけども、少しそういったところでも補強をしていただければなという気持ちを持っております。

それから、これはちょっとまた直接は関係ありませんが、この重点の見直しの事業、対象事業がきょうは示されましたが、これは今後検討されるというふうに思ってますけど、実は素案の中で、公共交通の関係の項目がございます。路線バスやタクシーなどの維持、確保っていう項目があるんですけども、実際、タクシーのことは一切触れてないなというふうに思ってます。現実、これは私だけが感じるかもしれませんが、松江市、あるいは出雲市は、今タクシーがほとんどない。あるホテルで話を聞きますと、あしたの朝8時にタクシーを予約したいんだというお客さんが、そういうことをホテルのフロントへお話をされたときに、タクシー会社へ電話したら、予約はできませんと、これは約束はできませんというようなお話がありまして、いかがなものかなというふうに率直に思いました。観光に関しても、これは大きく影響してくるんだろうなと思ってますし、もう実際にタクシー

業界の方から話聞くと、本当にドライバーの人がいないという状況になります。これは書き込むか書き込まないかは別にして、本当に島根にとって、あるいは県都である松江市にとっても非常に深刻な問題だなというふうに思っております、何らかのことができないかなというふうに感じております。

あとは教育関係の重点対象事業がありますけども、少人数学級の再編、あるいはスクールサポートなどの項目も載っております。これも見直し対象というふうに書きながらも、やっぱり充実していくんだと、子供一人一人にきめ細かく支援をしていくんだということがあって、矛盾をしないような見直しを進めていただければなというふうに思ってます。実際の小・中学校などのいじめや、あるいは不登校、非行などがいろいろと耳に入ってくるものですから、やっぱり現状をしっかり認識をしていただいて、あるいは教育委員会のほうの指導、こういったところも適切なのかどうなのか、こういったところの見きわめから、ぜひしていただければなと思ってます。具体的に素案にあれを書き込め、これを書き込めって話ではないですけども、今後、財政も含めて検討を進めていかれる中では、少し頭に置いてもらえればなというふうに思ってます。以上でございます。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 この、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根づくり」となっていて、私、本当にこれでいかねばならないと思っていたところなんですけれども、住民目線というか、県民目線で考えたときに、人口減少に打ちかつというのは、もちろん当たり前のことではあるんですが、その前に、やはり笑顔で暮らせる島根で自分たちは暮らしたいと思っているわけです。島根をつくっている人の意識をもっともっと変えなければ、やはりいい島根県にはなれないんじゃないかと思っているんです。ちょっと抽象的なことをお話しさせていただきますけれども、本当に最終的には県民の60万人以上の人が、全てがロコミで、いや、島根県に住んでよし、もう本当に来てよしのところだと言えるようなやはり島根県にしていくにはどうすればいいかということも少し私たちは考えていかなければならないと思っています。

ちょっと小さな話ですけど、先ほどからIターンの方とか協力隊のお話が出ておりますが、地域の中ではどんなことが起こっているかという、実際に町役場ですとか市の段階で、関係の、例えば協力隊がおられるところとか、Iターンが住んでおられるところ、そういう本当のところではその人のことが話題になるけど、それに関係のないところでは、ほとんどその情報が入ってないというのが現状ではないかと思っているんです。それは別

に役所とか県が悪いとかいう話ではなくて、本当にそれが住民、私たち県民として、それをもっと情報をしっかりつかんでいけば、その人に支援をすることがもっとできるんじゃないかと思うんです。

私が住んでいるところで、この間、こういう話がありました。Iターンの方ですけども、子供さんが熱が出たので、ほかにIターンで年配の人たちが来られているところが、地域のおばあちゃん、おじいちゃんと位置づけて、そこに見てもらって、自分はほかの子供を連れて病院に行くとか、それとか、どうしても高齢者、核家族で、夫は高齢者のほうへ支援に行かなければいけない。自分は、お母さんのほうは、子供は茨城国体の応援に行かなければいけない。中学生の娘が1人残って、家に1人残すわけにはいかないのという話で、どうしたかという、Iターンで来られたおうちへ、小さい子供さんがおられるところへ、その子供さんを、中学生を預けたんだそうです。それで、その預けられたほうは、小さな自分の子供を見てもらえるからすごく助かったと。だから、二、三日預かったというような状況で、お互いにいい関係ができた。それはやはり地域の中で信頼関係が生まれているから、そういうことができると思われるんです。やっぱりこういうことをどんどん広めていって、支援をしていかなければいけないと私たち地域は思っているんですが、そういう情報をもっと、私たちもしっかり流していかなければならないと思いますし、来る人も、住む人ですね、住む人たちも、地域へそういう情報をどんどん流していって、行政のほうも、そういう情報を、関係するところだけではなく、全体へ流していただければなと思っているところです。

それから、島根県はああして長い県ですので、非常にリスクだといえどリスク的にもとれますけど、やはり私は山の中で住んでますので、島根県ではおいしい魚がとれて、肉とかそういうものも、もう地域の中で育てて、私たちも食することができる。また、文化もある。本当にこれをしっかり生かしていかなければならないと思っています。地域内、島根県内循環型生活のやはり推進をもっともっとして、島根で私たち暮らしている者は、「島根いいね」を発信していくことが必要ではないかと思っています。いろいろな、皆さん、全然違う分野のほうから皆さん出ておられますけど、最終的に根っこっていうのはやはり一つであると思っています。その根っこが充実してくることによって、やはりいろいろなものがつながっていくと思いますので、そういうふうになんとか改善をしていきたいなと考えているところです。

それともう一つ、私の住んでいるところもそうですけど、地域課題とか、企業さんの課

題もありますけど、やはり地域には力がありますが、住んでいる人たちの頭がかたいて非常に思うことが往々にしてあるので、そこら辺はもう少し、具体的になかなか難しいことではありますが、やわらかくできるような、何か戦術を持っていけたらなと考えているところです。

○服部会長 ありがとうございます。

まだ御意見があるかとも思いますが、まだ先がありますので、先へ進ませていただき、またもし御意見があれば、最後に伺いたいと思います。

それでは、第2編のところですけども、生活を支えるサービスの充実、5章として、健やかな暮らしを支える、6章として、心豊かな社会をつくるということにつきまして、御意見ありましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。

○委員 地域に行きますと、ジェネレーションギャップというのが非常に大きいんですよ、やっぱり。若い人と我々年寄りと考え方が違うんですから、我々はどっちかいうと大きい大家族とかコミュニティーで生きてきてますから、コミュニティー大事にするんですけど、若い人はそういう感覚はないもんですからね、その辺のギャップをどう埋めるかっていう問題がこれから大きな課題ですし、それを埋めることによって、逆から言うと、若い人も住みやすくなるし、年寄りも住みやすくなると、そういうふうにして、その埋める手段をどうするかっていう問題がこれから大きな課題だろうと思っております。ぜひその辺を検討していただいて、若い人が入ってきても、年寄りと一緒に住めるにはどうすりゃええかっていう問題を検討していただければと思ってます。以上です。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 2編の健やかに暮らしを支えるというところでは、保健・医療介護の充実ということも書いてあります。県民一人一人の、生きがいを持って安心して暮らせるということなんです。今、医療の現場などにいますと、どうしてもいろいろ治療方針とか、そういったところの中に、本人がどうしたいかっていうことを意思表示できないまま、いろいろな場面に遭遇します。生まれたときから誰も人生がありますが、その一人一人がどう生きていくかっていうような、病気になった時に治療状況をどうするかっていうことだけではなくて、長いスパンの中で、人間としての一生をどう生きたいかっていうような、そういう人生教育みたいなところの部分が必要ではないかと思います。今まで医療現場ではお任せっというようなどこが多くありましたが、やはり一人一人が自分がどう生きたいか、成人になってどういう職業に就きたいか、医療に関しても、どういう治療を受けたいか、最期を

どう迎えたいか等、どう選択していくか、ずっと繋がっていることだと思ったときに、県民一人一人がそういうことをもう少しきっちり考えていける社会となれるよう、計画というのはおかしいのかもしれないですけど、そういう場（方向づけ）があってもいいのではないかと思います。以上です。

○服部会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

○委員 何回も済みません。松江市にも申し上げたんですが、ここでは非常に気になっているのは、学力が本県の場合は、公表されてる限りでは小・中の学力が芳しくない。私らの子供のときを思い出しますと、そんなことはなかったような気がするんですね。何でこういうことになったのかですね。長い間の経過で、実はこういうことになってるんだと思いますが、先般、秋田で会議があって行きまして、秋田は日本一なんですね、昔から。やっぱり相当挙げて、体制を組んで、学校教育の学力、もちろん教育は学力ばかりじゃもちろんないことは重々承知の上ですが、学力も大事だということで、相当やっぱり照準を定めながら、子供の知識教育の部分を、かなり組織的に教育調査委員会がやっておられるということが、ちょっと見学しただけでもうかがい知ることができる。その辺のところをこれから一つの課題として、漠然たるじゃなくて、やっぱりせめて全国中位クラスぐらいまでは学力の水準を引き上げていくということは極めて重要だと思うんですね、いろんな意味で。ですから、そののところ、何も学力だけではもちろんありませんが、それもしっかり取り組んでいただきたいと、特にそう思いますんで、一言申し上げさせていただきます。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 教育についてなんですけれども、私、小学校でダンスの授業をして回るのを、こととして7年目になるんですが、してまして、きょうも午前中、3時間、ダンスの授業をしてから来たんですけれども、学校のほうを回っていったときに、結構、先生方から聞く言葉が、私が都会から来てるっていうのもあってなんですけれども、都会にあって島根にないことのほうにフォーカスが当たってしまっているような言葉を聞くことが多いです。でも、私からすると、少人数のクラスだったりとか、学校規模が小さいことによって、きめ細やかに指導受けられたりとか、いろんな出番があったりとか、例えばスポーツなんかでも、県大会とか全国とかがすごく目標として持ちやすかったりとか、すごいうらやましいなどと思う面があるんですけれども、そのことを言われることっていうのが余りなくて、何

か教育の魅力として、島根県だからこそその持っている魅力っていうのをもう少し内部評価していてもいいんじゃないのかなというふうに思います。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 時間がございませんので、一つだけ意見として。実は、今、私どもJAの中で、これから検討しようという一つのテーマが、フードバンクの話なんです。世の中、非常に食物が余ってるけども、片一方で食べられない子供たち、貧富の差が出てる。こういう子供たちにどうやって光を当てていくか。私どもは食にかかわってますので、何とかそういった子供たちに手を差し伸べられないか、そういうことをJAの組織で取り組めないかということこれから検討していこうと思っております。

この間、そういう意見がありましたら、県とか行政はどうなんだという話なんですけども、私はこういう取り組みというのは余り行政になじまなくて、やっぱり民間の団体できちっとシステムを考えてやるべきじゃないかなというふうに思っております。ただ、片一方で、そういう貧富の差が出て、子供たち、学業の差とか、そういうものが出てることも散見されますので、そこらあたり、行政としてどう対応されるのか、ちょっと今後の考え方なりがあれば盛り込んでいただきたいなということ要望して、終わります。

○服部会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

それでは、ここで一旦、第2編につきましては打ち切りまして、第3編、安全安心な県土づくり、7章、暮らしの基盤を支える、8章、安全安心な暮らしを守る、このことにつきまして、御意見ありましたらよろしく願いいたします。いかがでしょうか。

○委員 失礼します。素案の78ページのほうに地域生活交通の確保というところがありまして、隠岐航路の運賃の低廉化について触れていただいております。これは島民、有人離島という観点で、そこに暮らす私たちの生活の便をよくするという点では非常に助かっていて、病院に通うですとか、そういった面でも非常にありがたいことで、こうして書いていただけたこと、今後もそういったことを継続していくとうたっていただいたことは非常にありがたいと思っております。

ですが、前回も言ったかもしれませんが、裏を返すと、出やすくなったということで、消費の島外の流出も懸念の一つに上がっております。特に商売をしている者としては、非常にそのあたりが気になります。私もきょうは船で、高速船で出てきたんですけども、レンタカーなども非常に安く借りられる、便利になっておりまして、朝出てきて、レンタ

カーを借りれば、4,000円程度で一日借りられますので、だあっと回って、午後の船で帰るということも可能なわけです。きょうは泊まりますけれども。そうすると、やはり消費という面では非常に不安が残ります。観光の方はやっぱり通常の料金で来られるわけで、観光業、観光業というか、観光の方も対象にしている商店の個人的な思いですけど、やっぱり観光の方の取り込みという点でも、本当にそこら辺が、外から来られる人も対象になればいいのかなっていうふうにも感じることがあります。これはその島に暮らさないといけない実感というか、隠岐に暮らす者ならではの危機感というか、そういったところだと思んですけど、このパブリックコメントの中に、石見・隠岐圏域の取り組みが最重要ではないかというようなコメントがあって、やっぱりそのところ、島に暮らす者、僻地に暮らす者の不安だとか危機感だとかに寄り添った文言で政策を落とし込んでいただくとうれしいなというふうにも感じています。済みません。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 隠岐航路のことを載せていただいて、本当にありがたいと思っています。私はがん患者ですけども、患者からすると、この隠岐航路の金額が安いのは本当に助かっております。本土でなければ受けられない医療がありますので、その点は重々感謝をいたしております。

隠岐航路に関しては先ほどおっしゃいましたので、その点で終わります。ただ、防災とか、危機管理のことですけども、きょうは北朝鮮の漁船とがぶつかって、いろいろと事故が起きております。隠岐の領海に、コメントの中にありました、漂着物だとかいろいろな問題があります。これを竹島というふうにごここに載せてくれとは言いませんが、やっぱり領土問題として守る、島根にある竹島は国の境界線であるわけですよ。なので、この辺のところのテロ対策とかいろんなことも、北朝鮮どんどん飛ばしておりますし、そういったものがこの李承晩ラインを越えて入ってきてる状況が今あるわけなので、その辺のところの郷土というか、領土を守るといいますか、そういったところへの対策というものをひとつ載せていただければ喜ぶます。それは漁師の人たちの生活を守ることにもなります。安心して漁に出れない状態ということは回避していただきたいなというふうにも思いますので、具体的に書けとは言いませんけども、ただ、領土問題かテロ対策等の中に、そういったことに備えるっていうふうな形の文言を入れていただければ喜ぶます。

○服部会長 ありがとうございます。

それでは、一通り御意見伺いましたけれども、最初の計画全体の考え方から、今、最後

のところまで通じまして、特に言い残した事等ありましたら、御意見を申し上げます。

○委員 いろいろたくさんの御議論の中で、私どもの身につまされるようなこともたくさんあって感謝しております。

結局、この計画、長期的に見て、これ全てできるといいねと。予算がそれは限られてるんで、県単独事業は絞るよというふうお話かなというふうにちょっと思いながら聞いたんですが、この中で、県職員の人数はそのままにすると、それから新しいものはつからないというふうなことが財政計画の中では書いてありましたが、県職員の人数が維持されるっていうか、県人口が減る中で、県職員の人数だけ確保すればいいのかということではなくて、これからの社会がAIとかいろいろ入った中でどう変わっていくかということを考えて場合に、省力化できるところは削って、きょう、いろいろお話聞いてると、結局相談する窓口で、現場を知った公務員の方がいれば、かなり部局横断的に話がつながるのに、それができないので困ってるっていう話が多いような気がします。ですんで、これから教育の現場でも、行政の現場でも、いろいろロボット化される分野ってあると思うんですけど、最終的にはいろいろな現場を知って、相談業務に対応できるっていうふうなところが重要ではないかなと思いますので、ここで掲げておられる人数は維持するというよりも、このなか、それには限りませんが、今、民間企業の大きなところは、MBAの資格があったり、採用するときにはどういう仕事があって、どういうことでどういう成果を上げてほしいっていうことを詳しく求めて、それに応じてくる人を採用するっていうふうなことが広がっておるんですが、県のほうも人事政策で、これからの行政のあり方、皆さんの要望がこれだけ多様化する中で、どう対応していくかっていうことを戦略的に考えていかれるっていうふうなことがあってもいいんじゃないかなと思って、最後の一言言わせていただきました。

○服部会長 ありがとうございます。

○委員 実は前回、私、有福、美又、温泉津、いい温泉地が多いので、ぜひPRをっていうふうに申し上げたんですが、実は、この10月の29日に女性部の全国大会を松江市で開催いたします。そのときの大会の明るる日のエクスカージョンで、島根県6カ所の観光案内っていうものを47都道府県に出して、今、どこに行かれるかっていうのを決をとってるんですが、大体半分ぐらい来てるんですが、正直、ほとんど足立美術館、出雲大社、それに、出雲大社に行けば、その流れとしてワイナリーですね。それで大森、石見銀山、1件でございます。津和野がやはり1件。そこの津和野も、群馬県からいらっしゃるのに、

結局、萩でお泊まりになって、津和野に入られて、津和野は40分足らずでございます、観光が。そして宇部空港からお帰りになるというコースなんで。それで、確かに先ほどから皆さんおっしゃってますように、島根県っていうのは長ひょろい県でございますので、どこでそういう大会を開催するかっていうことで、距離的なものが違ってきます。それで、やはり今、すごくバスの条件も厳しくなって、何キロ以上は運転手を2人つけないといけないとか、そういう経費的な問題もありますので、もう道路事情がすごく進んでると、もう即、高速に乗って帰るというケースが今、すごくふえております。それは途中で、だから、ちょっとどこかおいて見学するかっていうぐらいで、だから、今回、すごく私としたら、知人にも申し上げましたように、経済効果がありますよっていうふうに申し上げたんですが、なかなか宿泊ぐらいで、観光地となると、どうしてもこっちに偏ってしまう。だから、やはりどこでそういう大会を開催すべきかっていうことで、そういう観光、島根県全体を回っていただくっていうのが、だから、どうすればいいかっていうのも、私もすごく答えが出ないんですけども、やはりこれも少し考えて、これからいかなければいけないのではないかなと私は思っております。以上でございます。

○服部会長 ありがとうございます。

大体予定していた時間になりましたが、もし特にあれば伺いますが、いかがでしょうか。また後で、思いついた点等ありましたら、直接、県のほうに伝えていただければと思います。

どうも本日は活発な御議論をいただきまして、ありがとうございます。

これで意見交換は終了させていただきます。

本日、各委員から出されました御意見につきましては、事務局でしっかり検討をお願いします。

続きまして、事務局から、資料6について説明をお願いいたします。

○事務局 (資料に沿って説明)

○服部会長 ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、御質問等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、最後になりますが、知事からコメントいただければ喜びます。よろしく願いいたします。

○丸山知事 本日は、長時間にわたりまして、多岐にわたる御指摘を頂戴しました。今回が、一番皆さん伸び伸びと何か意見を言っていたような気がいたします。それぞれの所管事項で一つずつ、前回、素案について御指摘をいただいた、その上で、ほかの方々の御意見を踏まえて、大所高所から御指摘をいただいた、大変有意義な会でございます。それぞれ計画に落とし込めていけそうなものもあると思いますし、アクションプランとか予算とかの段階で対応するようなものもあろうかと思えますけれども、できるだけ反映できるように対応していきたいと思っております。

1点、冒頭で申し上げればよかったんですけども、議論を抑圧してもいけないと思いついて、最後に申し上げますけれども、皆様方御承知のとおり、私自身は今、選挙戦で明確にお約束した政策について、まだその実現のめどが立っていないということを、本議会でも、今の状況としてお伝えをしたところでございます。いろんなことを100点とれば、これは理想でありますけれども、島根県の置かれてる状況の厳しさ、それから財政状況が、それに対応して全国でも下位であるということを考えますと、全国中位を目指すもの、全国でも下位で我慢すべきものの中で、ここは一番を目指していこうという形で、いろんなもののめり張りをつけていかないといけない。場合によっては、46都道府県が実施しているけれど、島根県はやらないというふうを選んでいかなきゃいけないものもあるかもしれないといった、そういった形で、そういったものを組み合わせて、全体として、こういう姿であれば、この島根に残って、島根に戻ってこようというふうな若者、島根を出てる皆さんに思ってもらえるような姿を、若干時間かかるかもしれませんが、実現をしていきたいというふうにお思っておるところでございます。

といったことで、個別に見ますと0点に見えたり50点に見えたりというところもあるかもしれませんが、いろんなところを組み合わせ、工夫をしながら取り組んでいきたいというふうにお思っておりますので、また大所高所から、引き続き御指導いただきますようお願い申し上げます。本日の会の御礼とさせていただきます。皆様、引き続きよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

○服部会長 ありがとうございました。

それでは、最後に、事務局から連絡事項ありましたら、お願いいたします。

○事務局 それでは、今後の日程等につきまして、御説明をいたします。

今後の審議会の進め方につきましては、今後は、本日を含め、これまで審議会でいただいた御意見、また市町村との意見交換会やパブリックコメントを踏まえまして、島根創生

計画の答申案、こういったような作成作業を進めていくということになっております。次回の審議会は答申案につきまして御審議をいただきたいと考えております。後日、事務局から改めまして日程について御案内をさせていただきたいと思っております。また、本日御発言いただきましたことにつきましては、議事録を作成し、近日中に送付をさせていただきますので、御確認をいただければと思います。

皆様、大変お忙しいところですが、何とぞよろしくお願いをいたします。

事務局からは以上です。

○服部会長 ありがとうございます。

それでは、以上で会議を終了したいと思います。

本日はお忙しいところ、御参集いただきまして、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いをいたします。